

地域事業の進捗率 いずれも年度末見込

区分	配分額(千円)	進捗率(H22)	進捗率(H23)
合併前上越市	28,817,329	76.3%	92.3%
安塚区	1,935,533	62.3%	69.8%
浦川原区	1,470,748	43.8%	49.8%
大島区	1,434,415	54.8%	59.2%
牧区	1,522,525	53.9%	61.5%
柿崎区	3,015,906	59.0%	70.8%
大潟区	3,005,991	47.8%	73.0%
頸城区	2,872,155	60.0%	70.7%
吉川区	1,933,290	67.9%	71.4%
中郷区	2,296,351	57.1%	65.6%
板倉区	2,647,530	55.6%	59.3%
清里区	1,130,230	72.5%	75.6%
三和区	2,433,053	57.3%	63.1%
名立区	660,213	58.4%	61.9%
地域事業 合計	55,175,269	67.2%	79.9%



2日の総括質疑

地域事業費配分額を意識して予算編成したか 地域事業費、国保税引き上げなどで総括質疑

3月議会が1日から始まり、私は2日、総括質疑で登壇、地域事業費の配分額を意識して予算編成したかどうか、国保税の改定にあたって国保加入者の生活状況をどう捉えているか、繰越明許費の設定は地方自治法の定めに従い、しっかりと対応したかなどをたどりました。注目の地域事業費に関しては、市長は、「平成24年度には合併前上越市が配分額を超過して事業を実施しなければならぬ状況にある」などのべ、配分額を意識して予算を編成したかどうかについては核心にふれませんでした。

3月議会が1日から始まりましてどこまでお金を使ったかが明らかにされました。左上の表です。明らかにバラつきがありますね。地域事業費制度は14市町村が合併する時に合意した約束事です。配分された額を守るために最大限の努力をしてもらわなければなりません。

国保税滞納額は過去最高の12億8千万円に

国民健康保険税については、新年度3・6%の引き上げが提案されています。私は国保加入者の生活状況をどうとらえているか、なぜ平成23年度に税を引き上げるのかなどを問いました。

市長は答弁で、2010年度決算見込みで、加入者の営業収入、給与や年金収入等の減収により、1人当たりの課税所得が前年度比6万8千円、12%の減となる見込みであることが明らかになりました。また、滞納額は、滞納繰越分を含めて過去10年間に おける最高水準の12億8千万円になると推計されると答弁しました。国保加入者の生活がいつそう悪化していることを裏付けるものとなりました。

税率の引き上げについて



【凍み渡り】雪の上を歩いても埋まらない。おじいちゃんと一緒に凍み渡りができて良かったね。2月27日、吉川区小苗代にて撮影。

地域事業費の進捗率（配分された額）に対する

では、このままいくと平成24年度に6億円の赤字となる収支見通しであるとして、平準化するために新年度から引き上げると説明しました。

吉川区地域協議会が現行配分枠維持を求め意見書

吉川区地域協議会は先月25日付で村山市長に対して、「地域事業費に関する意見書について」と題する意見書を提出しました。

同意意見書では、「地域事業費は合併時の一つの約束事であり、合併前の旧市町村の総合計画を担保したものの」とのべ、①合併前市町村個々の地域事業費枠を堅持し、地域が必要と提案する事業は実施すること、②仮に、合併前上越市が地域事業費枠を超える状況になる場合は、それに至った経過や今後の状況を十分説明する中から、全市的な理解が図られた上で進めることを求めています。地域事業費制度については他区との地域協議会でも提出の動きが出ています。

春よ来い 第一四四回 三宝柑ゼリー

十日ほど前、市内にある親戚の家を訪ねた時のことです。「これ、上田のSさんから贈ってもらったの」そう言ってM子さんはこぶし大のミカンを私の前のテーブルの上に差し出してくれました。黄色くて、頭の方にこぶのあるミカンです。デコポンそっくりの形ですが、三宝柑（さんぼうかん）という品種なのだそうです。

このミカンは透明の包みの中に入れていて、上部は横にスパッと切られています。普通のミカンと同じように皮をむいて食べるものと思っていたら、実の部分はくり抜かれていて、その中にゼリーが入っています。甘酸っぱい、いい匂いが漂っていました。生の果物の中にゼリーが入った食べ物は初めてです。

このゼリーをスプーンで少しずついただきます。M子さんは「ねえ、私、ミカンと一緒にこんな手紙ももらったの」と言いながら一通の手紙を、私のところに持ってきました。

手紙は便箋で三枚、黒のボールペンで書かれています。書き手は明らかに女性とわかる、しなやかで美しい文字が並んでいます。内容は、寒中見舞いの挨拶から始まり、T子さんが亡くなったことにたいする慰（なぐさ）めの言葉が続いていました。「気に留めながら、なかなかペンをとることができませんでした……元気をだして下さい。お母さんは時間が経っても癒されることはむずかしいでしょうが、残された人生をたくさん楽しんでください。きつと娘さんもそれを望んでおられるはずですよ」私が手紙を読み終わらないうちにM子さんは、手紙を開いて読んだ時の感動などを次々と語り始めました。手紙には、温泉旅行への誘いの言葉もありました。そして、追伸として、M子さんのお兄さんを励ますメッセージまで添えられていたのです。

「文章って、思ってたければ書けないじゃない。何回も会っていない人なのに、私の気持ちを書くまで……うれしくて涙が出ちゃった」

T子さんはM子さんの娘さんです。二年ほど前に病気が判明し、闘病生活を始めた。自分の娘の体力が次第に落ち、痩せていく姿を見て、M子さんは気が重くない毎日が続きます。T子さんには中学校三年生と小学校五年生の子どもがいました。娘のことはもちろんのこと、二人の孫がどうしているか、心配でならなかったのです。何度もT子さんの住まいがある埼玉県川口市まで出かけ、娘さんに付き添ったり、家事の手伝いをしたりしてきました。

昨年八月、T子さんは川口市で三九歳の短い生涯を閉じました。この時もM子さんは娘さんのそばにいました。一〇年ほど前に夫を亡くし、今度は娘と永遠の別れをしななければならなくなったM子さん、覚悟をしていたとはいえ、がっくりしました。

上田市のSさんから贈ってもらった三宝柑ゼリーは六個。M子さんは自分だけで食べるのはもったいないと、近所の人や親戚の人にもお裾分けしました。

お裾分けする時は、必ずSさんから届いた手紙のことやT子さんのことを話してきました。そのせいででしょうか、気持ちはだいたい落ち着いてきたようです。つい先だつて訪ねた時にも、「高校二年生の時だったと思うけど、バドミントンやっていたんだけど、T子、アキレス腱切っちゃって入院したんだわ。そいでね、まだ治りきらないうちに弥彦へ行ったの。ポータブルトイレを持ってさ。あれは忘れらんねえ」と語っていました。

M子さんのいつもの元気なしやべりが戻ってきました。

「雪で楽しむ」イベント賑わう

2月26日、大島区、安塚区で「雪で楽しむ」イベントが行われました。このうち、大島区田麦の「庄屋の家」の広場で行われた第14回あさひ雪まつりを見てきました。



この夜のために、区内の道路沿いは雪の壁をくりぬいて約2万本のろうそくが灯されました。まさに見事な「雪ほたる」です。今年は天候がよかったこともあり、これまで以上にきれいだったように思います。

雪まつりの会場の正面舞台。私が会場に到着した時はちょうど吟詠の最中でした。舞台には吉川区のKさんもいて、びっくりしました。

私がこの祭りで楽しみにしていることのひとつは地元の人たちによる劇です。今年はウサギ年にちなんで

「ウサギとカメ」の物語を演じてくれました。観客席の人たちと一体になった場面もあって、とてもよかったです。

この日の夜は気温がどんどん低くなって、雪まつりにはぴったり。正面の舞台では寸劇や詩吟だけでなく、区内外から集まった人たちが三味線の演奏等も披露してくれました。

いとう誠豪雪対策本部長も活動報告

橋爪法一の市政報告会・新春の集い

吉川区内でこのほど開催した橋爪法一の議会報告会兼新春の集いで、日本共産党上越地区のいとう誠本部長が挨拶しました。



いとう誠本部長は、吉川区や大島区などの豪雪地帯を現地調査し、県や市に対して、要援護世帯に対する支援の強化や集落内の共同施設などに重機支援を行うよう働き掛けてきたことを報告するとともに、今後とも市民の暮らしを守っていくために全力を挙げていくとのべました。